






決	議長	局長	次長	係長	係員
裁					 

派遣承認要求書

令和5年 6月 22日

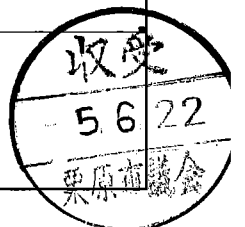
栗原市議会議長 殿

氏名 石川正運 

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。








記

日時	令和 5年 7月 26日 (水) 5時 00分から 令和 5年 7月 28日 (金) 20時 00分まで
派遣先	鹿児島県鹿児島市 熊本県熊本市及び合志市
派遣目的	稲わら肥ペレットの広域流通 大学等扶養世帯への応援給付金事業 農産物の直売施設「道の駅」
経費	288,210円
派遣議員氏名	石川正運、佐味嘉郎、三塚東
議長依頼文の要否	要
備考	



※ その他資料があれば添付願います。


様式第9号 (第6条関係)

決 裁	議長	局長	次長	係長	係員
					  

自家用車による出張計画表

令和5年6月9日

栗原市議会議長 殿

会派 政策フォーラム  
代表者 石川 正運 

下記のとおり自家用車による出張をしたいので、承認されるよう要求します。

記

日時	令和5年7月26日～令和5年7月28日
出張先	鹿児島県鹿児島市、熊本県合志市
目的	行政視察（栗原市役所から仙台空港までの往復）
出張議員	石川正運、佐々木嘉郎、三塚東
自家用車所有者	石川 正運

行程明細

出発地～行先	利用道路	距離(km)	車賃	有料道路代	駐車場代
7/26 栗原市役所～仙台空港	東北道他	85		2,560	1,800
7/28 仙台空港～栗原市役所	東北道他	85		2,560	
	小計	170	円	5,120円	
				出張雑費	7,000 6,800
				総計	13,920 13,720

# 栗原市議会視察行程表

【会派名：政策フォーラム】

日程：令和5年7月26日(水)～7月28日(金)

月日	行 程	発	着	摘 要
7/26 (水)	栗原市役所 ～ 仙台空港	5:30	7:00	自家用車乗合
	仙台空港 ～ 福岡空港	7:35	9:45	ANA3110便
	福岡空港 ～ 博多駅	10:00	10:14	福岡市地下鉄
	博多駅 ～ 鹿児島中央駅前	10:42	12:18	J R新幹線さくら545号
	鹿児島中央駅前 ～ 鹿児島県経済連	13:14	13:37	鹿児島市営バス
	【調査】 「稲わらと堆肥ペレットの広域流通について」	14:00	15:30	鹿児島県経済連営農戦略室 TEL:099-258-5491
	鹿児島県経済連 ～ 海づり公園前	16:06	16:07	徒歩
	海づり公園前 ～ 加治屋町	16:09	16:32	鹿児島市営バス
	ホテル(市内泊)			【宿泊先】ホテル法華クラブ鹿児島 住所：鹿児島県鹿児島市加治屋町13-6 TEL:099-223-051
7/27 (木)	加治屋町 ～ 鹿児島中央駅前	11:04	11:16	鹿児島市営バス
	鹿児島中央駅前 ～ 熊本	11:23	12:19	J R新幹線つばめ316号
	熊本 ～ 光の森	12:40	13:04	J R豊肥本線
	光の森 ～ 合志市役所	13:24	13:50	タクシー移動
	【調査】 「大学生等扶養世帯応援給付金について」	14:00	15:30	合志市役所 TEL:096-248-2038
	合志市役所 ～ 光の森	15:50	16:16	タクシー移動
	光の森 ～ 新水前寺	16:35	16:51	J R豊肥本線
	新水前寺駅前 ～ 辛島町	16:59	17:23	熊本市電
	ホテル(市内泊)			【宿泊先】三井ガーデンホテル熊本 住所：熊本県熊本市中央区紺屋今町1-20 TEL:096-352-1131

# 栗原市議会視察行程表

【会派名：政策フォーラム】

日程：令和5年7月26日(水)～7月28日(金)

月日	行 程	発	着	摘 要
7/28 (金)	桜町バスターミナル ～ 市役所前	9:10	9:14	熊本電鉄バス
	市役所前 ～ 平田機工	9:27	10:03	九州産交バス
	平田機工 ～ 道の駅すいかの里植木	10:05	10:06	徒歩
	【視察調査】 「道の駅設置経過と運営状況について」	10:10	11:30	道の駅すいかの里植木 TEL:096-272-2333
	道の駅すいかの里植木 ～ 平田機工	12:29	12:30	徒歩
	平田機工 ～ 熊本	12:32	13:24	九州産交バス
	熊本 ～ 博多	13:42	14:21	J R新幹線さくら556号
	博多 ～ 福岡空港	14:34	14:48	福岡市地下鉄
	福岡空港 ～ 仙台空港	16:30	18:15	ANA3117便
	仙台空港 ～ 栗原市役所	18:15	19:45	自家用車乗合

## 視察研修結果報告書

令和5年8月24日

栗原市議会議長 高橋 渉 殿

会 派 名 政策フォーラム

代表者氏名 石川 正運



視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

### 記

- 1 期 間 令和5年7月26日（水）～28日（金）
- 2 視察研修先
  - ① J A鹿児島県経済連
  - ② 熊本県合志市役所
  - ③ 道の駅「すいかの里 植木」（熊本市農水局）
- 3 目 的
  - ① J A鹿児島県経済連 稲わらと堆肥ペレットの広域流通  
「稲わら」と「堆肥ペレット」広域流通の目的、経過、現状、今後について視察するため。
  - ② 合志市役所 「大学生等扶養世帯応援給付金」  
制度創設の経緯と実績を視察するため。
  - ③ 道の駅「すいかの里 植木」 「道の駅」設置経過と運営状況  
道の駅の設置経過と運営状況を視察するため

#### 4 調査研究内容

##### ① J A 鹿児島県経済連

米どころの宮城県 J A 全農みやぎと畜産大国の鹿児島県 J A 鹿児島経済連は、稲わらと堆肥ペレットの広域流通化に乗り出しことから、目的と現状の調査研修を行った。

鹿児島県の農業の特徴は、農業は地域経済を支える基幹産業であり、2021年の農業産出額は全国2位で4,997億円。特に全国上位の飼養頭数を誇る豚、肉用牛を中心とした畜産は農業産出額の65%を占めている。

鹿児島県は肉質の優れた黒毛和種の飼養頭数が、2022年2月現在で、321,000頭で全国1位。

2017年宮城県で開催された第11回全国和牛能力共進会で団体表彰首席を獲得し、まさに質量ともに兼ね備えた日本一の和牛産地。

また、豚の飼養頭数が1,199,000頭と全国1位で生産基盤の維持、強化を図るとともに、ブランド力の向上と販売力の強化に取り組んでいた。

飼養頭数が多いだけに排出される堆肥の処理と餌の確保が課題となり、堆肥は土に返すことが有効活用の第一歩であることから、堆肥を手軽に使える道はペレット化にすることで普及し土壌改良材や肥料としていきたいとのこと。

鹿児島と宮城で耕作連携による粗飼料の自給率向上、家畜堆肥の広域流通による循環型農業の確立、稲作農家生産者の新たな収入源確保に向けて実証実験を目的に堆肥ペレット、稲わら広域流通実証が行われた。その内容は宮城から稲わら約137トンと肉用牛の餌として、鹿児島からペレット堆肥60トンと水田用肥料として宮城で活用することで、2023年2月から3月行われた。

今後は堆肥入り低コスト肥料の普及を推進していきたいとしていた。宮城と鹿児島は1,500kmと離れており、流通コストの心配、課題も多い中、栗原市には堆肥センターが3か所も設置されている。地元でも耕畜連携、有機肥料としての活用策として堆肥のペレット化のため、本気で取り組むことが資源の有効活用へとつながっていくのではないかと思う研修であった。

##### ② 合志市役所

「大学生等扶養世帯応援給付金」創設の経緯と実績について、合志市を訪ねた。説明してくれたのは、市長公室長をはじめ行政側から4人、議会からは議長をはじめ3人の職員だった。私達政策フォーラムは3人だったが聞き漏らすまいとメモをとったりした。

行政視察先の熊本県合志市は県の中央部にあり、2006年に合併し合志市となった。面積は栗原市の16分の1だが、現在の人口は約65,000人で合併以来毎年約1,000人ずつ増加しているという。熊本市の

ベッドタウン的位置にあること、隣の菊陽町に世界的半導体メーカーのTSMC関連会社の進出で、かつてないにぎわい、人や物、お金の流れが出ている。（後に、市の車でTSMC関連企業群を案内してもらったが、巨大なビルが何棟も建っていた。）

さて、この「大学生等扶養世帯応援給付金」は新型コロナによる影響が長期化する中で、エネルギー・食料品等の物価高騰などにより、修学や生活に影響が生じている大学生等を扶養する世帯の経済的負担を軽減するため、「大学等扶養世帯応援給付金」を創設したという。

2004年4月以降に生まれ、修業年限が1年以上の課程の大学、大学院、短期大学、専門学校、高等専門学校、各種学校、進学予備校などに在籍する子どもを扶養して保護者が対象で、子ども1人につき2万円を給付することにしたものだ。全国的にみても、このような人づくりのための、教育において支援している例は少ないようで、対象となる人達からは評判は良いという。しかし、市が想定した人数には、遠く及ばない申請者数だったという。

「どういうことでしょうか」と尋ねると、担当の方からは、市民の所得が県下でも高く、申請漏れとかもあるかもしれないということだった。

市民からは来年以降も続けてほしい、使いにくい奨学金制度の拡充をして給付型奨学金制度をつくってほしいなどの声が寄せられているという。

合志市は、・子育て世帯が多く入ってくる現実がある。・ベッドタウンで大きくなる。・出生数が増えている現実がある。など栗原市とは違った面を知らされた。しかし、財政面ではふるさと納税で多くの寄付金を集めており、かせぐ自治としてわが栗原市もみならうべきことが多いと感じた行政視察だった。

### ③道の駅「すいかの里 植木」

栗原市は2021年3月に「道の駅」構想を策定したが、現在は棚上げ状態ある。そこで、「道の駅」の運営のあり方や地域活性化を図るため、熊本市の道の駅「すいかの里植木」を訪ねることとした。

2010年3月に植木町と熊本市は合併し、新市基本計画に基づき2016年11月、地域の農業、商工業その他の産業及び観光の振興を図るための拠点施設として整備するとともに、地域内外の交流を促進させるための場を提供し、地域の活性化を図ることを目的に道の駅を開設した。

施設の運営は、効果的にするためのノウハウが必須であることから、地元のスーパーを経営する会社が指定管理者に選定され、開設当初の目標額7億円に迫る勢いで、2022年度は約6億6千万円になっており、着実に売り上げを伸ばしている。売り上げの構成割合は地元の農産物が多く占め、実に65%となっている。

今後の課題として、出荷者や出荷量の増加は勿論であるが、地域と連携したイベントなどを開催し、集客や売り上げの増加を図るとしている。ま

た、スイカの産地として全国的にも知られていることもあってか、スイカの売り上げは増す一方で、当初の想定を大きく超え、スイカのシーズンに販売スペースが不足するなどの理由から、農産物のさらなる販路拡大のために、木造平屋建ての販売施設を増築する計画され、完成は2024年2月予定であるという。

2021年3月に策定した市の「道の駅」構想を再考し、地の利を生かした農産物や加工品の販売は勿論のこと、防災拠点としての位置づけを考慮しながら、商品販売などの経験豊かな会社や団体などを指定管理者として農産物の直売施設の必要性を強く感ずるとともに、政策提言にも生かしていきたいと思った。

5 参加議員 石川 正運、三塚 東、佐々木 嘉郎

